

令和3年度 出雲農林高校 農業祭

11月12日（金）・13日（土）「今を照らす農業祭～広げよう農の輪～」のテーマの下
農業祭を開催いたしました。昨年に続き新型コロナウイルス感染症対策が求められる中、規模を
縮小して実施しました。



児玉実行委員長挨拶



山根校長挨拶



講演 京丸園(株) 代表取締役 鈴木厚志氏



演題「ライバルはディズニーランド!笑顔を耕す農園の挑戦」



吹奏楽部演奏



吹奏楽部演奏



太鼓部演奏



太鼓部演奏



太鼓部演奏



太鼓部演奏



農産物・加工品即売



動物広場



農産物・加工品即売



農産物・加工品即売



スタンプラリー抽選会



スタンプラリー抽選会

日頃の学習成果や部活動の成果を展示会場や即売会場で発表し、来場された方々には心の込められたおもてなしをし、生徒たちにとって互いに高め合い共に生命を学ぶことの尊さを再認識するまたとない機会となりました。

ご来場いただきました保護者の皆さま、誠にありがとうございました。

令和3年度出雲農林高校農業祭 開会式あいさつ

出雲農林高等学校 校長 山根 登

令和3年度出雲農林高校農業祭が、本日と明日の2日間、本校を会場に開催できることを本当にうれしく思います。新型コロナウイルス感染症の拡大が心配される中ではありますがワクチンの効果もあり収束に向いていることもうれしい材料の一つです。しかしながら、地域の方を広くお招きすることは今年も控えました。校内に入り農産物や加工品、展示の様子を見ながら生徒の皆さんと直にふれ合いたい、という要望はたくさんありましたが、それに応えることができず、申し訳ない気持ちです。この気持ちは、きっと皆さんと一緒にしたいと思います。来年こそは、多くの方々に精一杯の学習発表がしたいと考えています。

さて、今年のテーマは、「今を照らす農業祭 ～広げよう農の輪～」です。これを考えてくれた環境科学科3年金田さんに込められた思いを聞いてみました。すると、コロナ禍で暗いニュースが多い中「農業祭」が学校を盛り上げてくれると思うし、来場は保護者の方のみになってしまったが、せめてこの人たちだけにでも農業の素晴らしさを届けたいと話してくれました。また、ポスターは動物科学科1年の阿部さんの作品です。ポスターを作りにあたり歴代のポスターを見たところ、生徒が正面を向いているものばかりだったので、違った方向からの図案にしたいことと、肩を組んでいるポーズから生徒の団結心を表したかった、ということでした。いずれにしても素晴らしい作品を考案してくれた二人にあらためて拍手を送りましょう。

この農業祭の意義をあらためて考えてみますと、皆さんの地道な取り組みにより今年も多くのお米や野菜、果物、味噌や漬け物、ジャムなどの加工品、牛乳、そしてこれを加工してのヨーグルトやアイスクリーム、原料は仕入れますが、ハムやベーコン、環境科学科の皆さんによる正門付近や登校路などの環境整備が多く実施されました。この成果は、皆さんの努力が一番ですが、努力だけではどうにもならない天候（自然）にも大きく左右され、豊作や不作を繰り返しながら試行錯誤でその技術を受け継いでいます。私たちは、春にその年の豊作を願い、秋には収穫を喜び、その感謝の気持ちを表すのも農業祭だと思います。

農業は英語では、aguriculture と言いますが、aguri は「農業の」という意味で、culture は土だけでなく「心を耕す」という意味があります。そこから、「文化」や「教養」という意味で用いられるようになったと言われます。ですから、農業を行うことは農作業を通じて築き上げられた文化を受け継ぐことに繋がります。本校でも毎年イネの栽培に取り組んでいます。もちろん米は、日本人の主食ですが、実に3千年以上前に大陸から持ち込まれました。その時から長い年月をかけて、栽培方法や品種改良、肥料や農機具も開発がなされ安定的に生産が可能になったのは実に20世紀になってからのことです。これは一つの例ですが、皆さんが今年長い期間をかけて実習してきたことは、先人たちが積み重ねて確立してきた財産でもあります。今の時代、私たちの「食」がこれほど安定しているのは先人たちの努力のお陰であることを忘れないでください。

生徒の皆さんには、農業祭を機会に「天と大地の恵みと安定した食への感謝の思い」を巡らせて欲しいことをお願いして開会式のあいさつとします。